気づき，考え，実行する
さし人つうしん

唐津市立佐志小学校
学校だよりＮＯ.１９
令和３年１１月２９日
文責：校長　松野克己

教育委員会学校訪問・唐津市学力向上研究会

１１月１７日(水)は午前中に県と市の教育委員会による学校訪問、午後は唐津市学力向上研究会という緊張感のある１日でした。

教育委員会の学校訪問は、教育事務所長や教育長はじめ、教育委員会の皆さんが学校の様子を視察に来られるものです。コロナ対策などの学校の取組を説明した後に、全ての学級の授業の様子を参観されました。職員だけでなく児童にもなんとなく緊張感が感じられましたが、どの学級も集中して学習する様子が見られ、ほっとしました。その後は私と教頭先生が質問を受けたり、感想を聞いたりして、学校訪問を終えました。

１の１「ひみつのわざをつかって、１の１スペシャルじどう車ずかんをつくろう」

４の１「登場人物の気持ちの変化を中心に読み、物語の魅力を紹介しよう」

午後は教育委員会に加え、唐津市内の各小学校と佐志中から多くの先生方を迎え、３つの国語の授業を公開しました。授業をしたのは１の１谷口先生、４の１山下先生、５の１砂原先生です。この日の授業は夏期休業中から構想を練り、外部講師の指導を受け、何度も学年グループで意見を交わし、隣の学級で事前授業を行い、時間と労力をかけて創り上げたものです。それだけにうまくいくことを願っていました。その願い通り、どの学級の子供たちもよく考え、積極的に意見を出し、一心不乱に書きといったように、とてもよく頑張ってくれました。授業後はそれぞれの授業に対して協議を行い、その中で、この子供たちの姿に感心する声がさかんに聞かれました。研究授業は終わりましたが、これからも研究主任の前川先生を中心に、一人一人の児童が自分の考えをもち、それを友達と共有していく中で、考えを深めたり広げたりする授業に取り組んでいきたいと思いますし、そのような活動を通して、互いの思いや考えを認め合うことのできる心の広い児童を育てていきたいと思います。

５の１「唐津の海の魅力をより広げる、説得力のある意見文を書こう」

グループでの研究協議

4年生セラピューテックケア講座

4年生は、総合的な学習の時間で「人にやさしい町づくり」（社会福祉）について学習を行っています。11月9日火曜日には、認定NPO法人日本セラピューティック・ケア協会の方を講師に招き、セラピューティック・ケア体験授業を1階音楽室にて行いました。セラピューティック・ケアとは、イギリスで開発された、手のひらだけで安らぎをもたらすメンタルケアです相手の肌に触れることを通して、その「肌のぬくもり」と「温かい心」を伝えるそうです。イギリスでは、病院や高齢者施設を中心に、心のケアを目的として取り入れられているそうです。

子ども達は、しっかりとメモを取り、実際の体験では、恥ずかしがりながらも真剣に取り組んでいました。

～児童の感想から～

・ゆっくり体をさわってもらって、気持ちよかった。

・くすぐったかったけど、友達とセラピューティック・ケアできて楽しかったです。

例年、高齢者福祉施設との交流会で披露しているのですが、本年度は交流ができなかったので、まずは、帰って家族の方に披露をしました。

（文：４の１担任　山下）

小６担任部落史学習授業研究会

県内小中学校では「差別解消に向けた学習計画」を毎年作成し、それに基づいた授業を行っています。佐志小学校でも、各学年ごとの必須教材を使った授業をおおよそ年間４回行っており、６年生では総合的な学習の時間や道徳の時間に１１時間にわたる部落史を中心とした差別解消に向けた学習を行っています。

１１月２２日(月)、主に唐津地区内の小学校６年生担任の先生方に来ていただき、６年１組の道徳の授業を公開しました。授業者は本校児童生徒支援教員の池田隆史先生。「解体新書うらばなし」という主題名で、杉田玄白らが解体新書を完成させる過程で必要であった腑分け(解剖)を行う技術をもった虎松の祖父が、当時、差別を受けていた身分の人であったことを紹介し、杉田玄白と虎松の祖父それぞれが互いにリスペクトしあっていたであろう思いについて考えさせる授業でした。体育館で多くの先生から見られながらの授業でしたが、さすがに６年生。臆することなく自分の考えを活発に出し合っていました。この授業を通して、偏見や先入観をもたずに人と接することや、相手の立場や考えを認め合うことの大切さについて学びました。そういう学びを日頃の人との接し方に生かしていくことが、この授業のねらいです。

「学校だより」はホームページでもご覧になれます。右側のＱＲコードをスマートフォンなどの専用アプリで読み取ってご覧ください。